



イソギンチャクの仲間



サシバゴカイの仲間



サツマハオリムシ

深海散歩に でかけよう!

～神秘と驚異に満ちた世界～



ミドリフサアソコウ

©Yoshihiro Fujiwara/JAMSTEC

2013 11/16(土) - 12/14(土)

■開館時間 10:30-17:30(入館は17:00まで)

■休館日 日・祝 ■入場無料

桐蔭学園メモリアルアカデミウム ソフォスホール

主催：学校法人桐蔭学園 協力：独立行政法人海洋研究開発機構

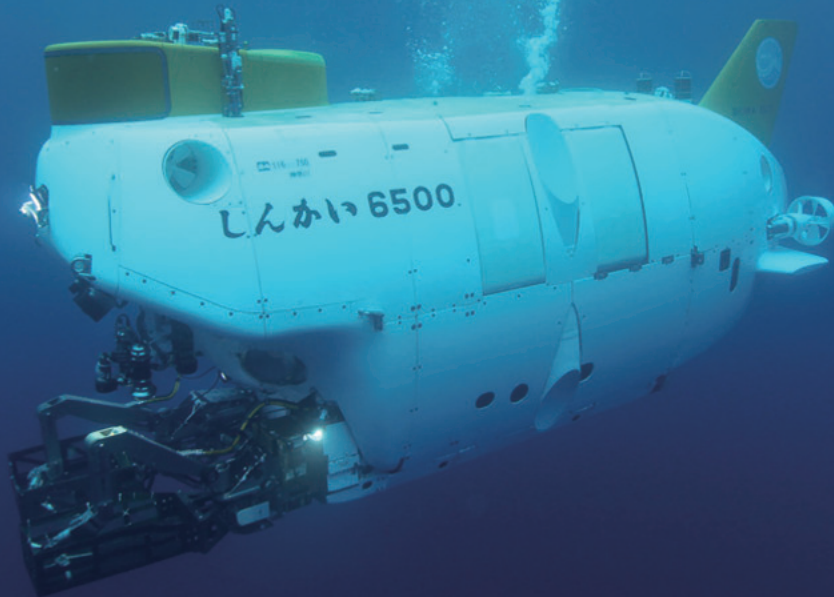
お問い合わせ先 桐蔭学園メモリアルアカデミウム 神奈川県横浜市青葉区鉄町1614 TEL.045-975-2100 <http://toin.ac.jp/ma/>

バスでのご来場をお願い申し上げます。

東急田園都市線 市が尾・青葉台各駅、または小田急線柿生駅から桐蔭学園行きバスで約15分



MEMORIAL ACADEMIUM



有人潜水調査船「しんかい6500」

「深海散歩にでかけよう！ 神秘と驚異に満ちた世界」開催にあたって

学校法人桐蔭学園理事長 平岩 敬一

このたび桐蔭学園メモリアルアカデミウムでは、独立行政法人海洋研究開発機構のご協力のもと、深海についての企画展を開催することとなりました。

深海とはどのようなところなのでしょうか。私たちの目の前に広がる海は、太陽の光を受けて青く輝き、浅瀬では魚の姿も見えます。ところが、海に潜っていくとだんだん太陽の光が届かなくなり、暗闇の世界が広がります。植物プランクトンが光合成できるぎりぎりの水深が200m、これより深いところを一般的に深海とよんでいます。深海は、地球上の海の約90%を占めており、桐蔭学園から最も近い海、相模湾にも水深1000mを超える海域（相模トラフ）があります。

深海には、19世紀半ばまで生物は存在しないと考えられていました。深海は「真っ暗」で「低温」で「高圧」という、非常に過酷な環境です。その環境に順応するため深海で生息する生きものたちは、光ったり、大きすぎる目や口をもっていたり、あるいはなかつたりと、普段私たちが見慣れた生物のイメージとはまったく異なる姿をしています。また、深海の生きものたちのなかには、人間には有毒な硫化水素など、地上では考えられない物質を栄養源にして生命を維持しているものもいます。

現在深海には、数十万種以上の生きものがいると言われてしていますが、人類が踏み入った深海海域はほんのわずかで、そのほとんどが未踏です。これからさらに、未知の生物や、様々な新しい発見に出会えることでしょう。

会場では、深海の生きものたちの剥製標本や、写真パネルを展示します。また、海洋研究の第一線をいく有人潜水調査船「しんかい6500」や深海巡航探査機「うらしま」、地球深部探査船「ちきゅう」などの模型から、日本の優れた技術開発力にも注目してほしいと思います。

たくさんの不思議に包まれている、深海。本展を通じて、豊かな想像力と探求心が育まれることを願います。



地球深部探査船「ちきゅう」



支援母船「よこすか」



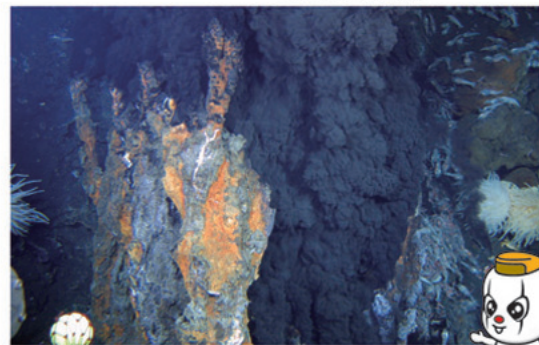
ニッキー
(しんかい2000)



深海巡航探査機「うらしま」



有人潜水調査船「しんかい2000」と
支援母船「うらしま」



「しんかい6500」の調査潜航で撮影された
ブラックスモーカー



ロッキー
(しんかい6500)



化学合成生態系の生きものたち。ヘイトウシカイヒバリガイ、キノミフネカサガイ、ゴエモンコシオリエビ



ウーラー
(うらしま)

画像・イラスト提供：海洋研究開発機構



- アンジー (ちょうちんあんこう)
- <各駅からのバスのご案内>
- 東急田園都市線 青葉台駅よりバス
「桐蔭学園前」行、終点。または「市が尾駅」行、「桐蔭学園前」下車
 - 東急田園都市線 市が尾駅よりバス
「桐蔭学園前」行、終点。または「青葉台駅」行、「桐蔭学園前」下車。または「柿生駅北口」行、「桐蔭学園入口」下車
 - 小田急線 柿生駅よりバス
「桐蔭学園」行、終点。または「市が尾駅」行、「桐蔭学園入口」下車
- <タクシーご利用の場合>
- 東急田園都市線 青葉台駅、または小田急線 柿生駅からが便利です。行き先は「桐蔭学園 駅（くろがね）神社前」とお伝えください。
- ※駐車場はございませんので、お車での来場はご遠慮ください。